

第13回 富山県河川整備計画検討委員会における主な意見と対応

平成25年2月21日(木)10:00～12:00

項目	意見	内容	対応
<b>&lt; 泉川水系河川整備計画(案)について &gt;</b>			
治水	将来の整備について	今回の整備計画で年超過確率1/10で整備するということであるが、将来1/30で整備するときにはどのように改修するのか。	下流部(JR部付近)は低水敷を掘削することによって、上流部(上泉地区付近)は30cm程度河床掘削することによって1/30とすることができる。
		将来1/30とするときには放水路を整備して対応するのではないのか。	人家連坦部に影響を及ぼさないように放水路案を検討してきたが、経済比較や早期の事業効果発現等を総合的に勘案し、現川拡幅が適当であると判断した。
		今後約20年間で上流区間を整備するというが、例えば宅地開発によって地面への浸透量が減少し、下流へ流出量が増大すること等が考えられる。下流の1/30整備はいつ頃着手できるのか。	基本方針レベル1/30の整備については、当面20年間で上流部の人家連坦部のネックになっている箇所を優先的に整備するため、それ以降の整備を考えている。
	改修方法について	道路の敷幅は無くなってしまおうのか。	現川を拡幅し、さらに外側に生活道路を確保していく必要がある。
		改修方法として暗渠方式は考えられないか。	河川改修は基本的に現川拡幅であると考えている。暗渠については、維持管理の面や環境に対する配慮等を総合的に判断し、開水路としたいと考えている。
		平成20年度に溢水した中流部のクランク区間について、他の区間よりも手厚く整備するのか。	現川拡幅を基本としながら、実施設計の段階でなるべくスムーズな線形になるように配慮したい。
支障物件について	河道拡幅に伴い、移転となる物件はどのくらいあるのか。	概ね十数件の支障物件がある。移転になるか曳家になるか等の詳細については、今後河川の法線や拡幅の幅を協議しながら決めていくことになる。	
環境	水辺環境について	今回の整備計画区間で、水辺環境に配慮している個所はあるか。	植物については、下流のJR横断部については、両岸に水田雑草群という在来の草が繁茂しており、堤防を盛土とすることで配慮していきたい。魚類については、過去の調査でウグイやギンブナが確認されており、瀬や淵を設置する等配慮するよう努めていきたい。

第13回 富山県河川整備計画検討委員会における主な意見と対応

平成25年2月21日(木)10:00～12:00

項目	意見	内容	対応
環境	生物について	上流部(人家連坦部)には植生や魚類が見られないようであるが、事前に環境調査を行っているのか。	「氷見市史」や、平成7年から9年に実施した現地調査の結果を参考にしている。
		生物に対して具体的にどのような配慮をしているのか。	工事着手前に生物等の生息状況を確認しており、生息が確認された場合は、専門家に相談しながら、生物等に配慮した工事の進め方を考えている。
	護岸の材料について	土の護岸とブロックの護岸では、吸熱率が異なる。環境に影響が出ると考えられるが、何か配慮されているのか。	指摘の内容は検討したことがないが、ブロック護岸の場合は、最低限必要なところにブロックを配置し、なるべく土の護岸となるように努めている。
その他	河川情報について	二級河川で一番問題なのは、河川情報が少ないことだと思っている。河川情報について、今後の方針を教えてほしい。	県では40河川超の河川情報を提供しており、近年浸水被害等のあった箇所についてはウェブカメラを利用する等、インターネットを通して確認できるようにするなどを考えている。今後も工夫していきたい。
<b>&lt;上庄川水系河川整備計画の基本的事項について&gt;</b>			
治水	既往最大洪水について	既往最大の流量はわかっているのか。	流量のデータは記録されていないが、昭和51年の既往最大雨量では、213mm/24hである。
	土砂堆積について	河口閉塞は以前から見られたのか。	これまでも土砂堆積は見られた。堆積と流出が繰り返されているため、堆積土砂は出水によってある程度掃流されていると考えているが、住民説明会での意見を受けて、来年度に改めて検討したいと考えている。